



震災から早くも3年以上が経過したが、放射能汚染との戦いはまだ始まったばかりである。「野生生物と社会」学会行政研究部会では、野生動物管理において重要な役割を果たしている狩猟者に着目し、放射能汚染が狩猟者の行動に与えた影響を広域的に評価する調査研究に約2年間取り組んできた。本研究セミナーでは、これまでの調査結果を中心に報告し、今後必要となる調査研究や行政施策について議論を行う。

平成26年7月20日（日）午後1時30分～5時

宇都宮大学地域連携教育センター講義室A（峰キャンパス 5号館2階）

http://www.utsunomiya-u.ac.jp/nap/campus_nap.php

- (1) 放射能汚染が狩猟者の行動に与えた影響～現役狩猟者と元狩猟者へのアンケート調査～
上田 剛平（兵庫県但馬県民局朝来農林振興事務所）
- (2) ドイツ・バイエルン州における狩猟獣の放射能汚染への行政対応
高橋 満彦（富山大学人間発達科学部）
- (3) 原発事故後3年間のイノシシの汚染モニタリングの状況
小寺 祐二（宇都宮大学 雑草と里山の科学教育研究センター）
- (4) 意見交換

不要

「野生生物と社会」学会 行政研究部会事務局（7月11日締め切り 定員70名先着順）

（メールアドレス gyousei-office@wildlife-humansociety.org）